

HopStepJump ⑥

<https://toyono-jinjikyo.com/>

授業づくり③

～ 道徳の授業づくり・道徳の時間について ～

第5回初任者研修は、桃山学院教育大学の龍神美和先生から道徳の授業づくりについて演習を交えご講義いただきました。講義の前半では、道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の意味や読み物教材の分析の方法について、後半には前半で学んだことをもとに、個人や小グループでの指導案作成や教材を分析するワークをおこない、そこで話し合われた内容や疑問点などを途中からは中グループで交流し、より道徳の教材についての具体的なお話をしていただきました。1学期を終え、それぞれの道徳の授業・道徳の時間を今一度振り返り、2学期にむけて授業づくりに関する学びや気づきの多い研修となりました。



～振り返りシートより～

道徳の授業のねらいを、「親切にすることは大切」や、「きまりを守ろう」といった抽象的なものにする
と子どもの道徳性が育たないので、なぜ親切にすることが大切なのかということ子どもに考えさせるた
めに具体的なねらいを設定することが道徳性を育てるのに重要であるということがとても納得しました。
また、道徳の授業は、正解はないけれど子どもが納得する答えを探すことをしていかないと学びは深まら
ないということを知り、ただみんなの意見を言い合うだけではいけないんだなということに気づきまし
た。

一番印象的だったことは、導入でクラスの話から入ることについてです。私はいつも授業づくりで導入
時にクラスの話を出して、子どもたちに意識づけをしようと考えて進めていきましたが、「クラスの実態を
取り上げて進めることはみんなが同じではないから考えにくい子もいる」という話を聞いて、何でもクラ
スのことから考えさせていくことについては考えなければならないと思いました。学校での話、クラス
の話を導入で使うこともあります。その時にこの話から入ること考えにくい子はいないか、またみんな
が自分事として考えられるようにどのような手立てをとればよいのかを今回の講義を踏まえ、引き続き考
えていきたいと思いました。

中心発問の設定方法について、今まで私は指導書の中にある発問を活用することに終始して、中心発問
についてあまり考えていませんでした。しかし、講義で学んだように場面に分けて考えると、どの場面を
中心として生徒たちに考えさせたいかということが自然と見えてくるようになりました。また、大まかに
中心発問に関わる場所が見えてくると、そこに隠された道徳的価値に気づくこともできました。2学期か
らの道徳授業では今回の研修で学んだ教材分析の方法と中心発問の設定方法を活かして授業を実践して
いきたいです。

中学校の読みもの教材は長いものが多いため、読みながらだと登場人物の関係性をつかむことが難しい
生徒も出てきます。そこでICTを使い、登場人物の関係図を常にスクリーンなどで前に表示することは
子どもたちも理解し、整理しやすいと思ったので2学期から実践していきます。

龍神先生のお話を聞いて、道徳的にかしこくなるという言葉になるほどなと思いました。各教科を学ん
で、各教科についてかしこくなるのと同じように、道徳的にかしこくなることを楽しめる授業をつくるこ
とができれば、子どもたち自身が納得して道徳を学ぶことができ、よりよい生き方をできるようになるの
ではないかと思いました。

本日の研修を受けて、道徳の授業をよりよくするとともに、より子どもの道徳性や道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる方法を学ぶことができました。今まで、私は道徳の授業が非常に単調になってしまい、子どもの興味・関心を引きつけることができないことに悩んでいました。しかし、龍神先生の話の聞いたり、同じ初任者の先生と考えを出し合うことで、道徳の教材や発問を自分事としてとらえさせることが大切だとわかりました。今後は、導入などで子どもの実態に合わせた発問をしたり、友だち同士の意見交流を行うことで、子どもが自分自身の考えを見つめなおしたり、広げることができるようにしていきたいと思いました。

今日の同僚の先生方との交流で、道徳の授業の終わりに、「私もこういうことがあったな」「自分もこんな風になりたいな」と子どもたち自身が振り返られるような授業展開が魅力的という話が出て、私もそのような授業ができるようにしていきたいと感じました。私の授業では、子どもたちにわかりきったことを言わせたり書かせたりする授業になっていることに気づきました。また、子どもが視覚的にわかりやすいような板書づくり、発問の仕方の工夫ができていなかったと考えられました。今日学んだことを振り返り、実践を積み重ね、よりよい授業をつくっていききたいです。

今回は「道徳」をテーマにした授業づくりの研修でしたが、他教科にもつながること・言えることがたくさんあったと思います。また、授業づくりについて学ぶ中で、子ども理解や学級づくりにもつながることも多いです。研修受講後に記入した自分の振り返りシートや、この研修通信を読むことで講義内容を思い返したり、2学期の道徳の授業を振り返る機会にしてほしいです。

子どもたちとの授業と同じで、みなさんにも毎回の研修で「こんなことを学べたら…」という課題を意識してほしいです。今の自分の課題をつかみ、「どうしたら〜」「なぜ〜」という授業の現状を改善するヒントを研修の中から見つけようとする、気づくことも変わってくるはずです。

研修前に「子どもがいきいきと自分の考えを発表できる発問を考えられるようにする」と学びたいことの目標を設定しました。教材の着目する場面を知ることができたので、子どもたちが「どうしてだろう」と疑問を持って登場人物の行動を考えていけるようにしていきたいです。

今回の研修では、4人で一つの教材を分析しました。一緒に教材を分析することで、教材に対する読みが深まりました。それだけではなく、導入ではアニメを使ったり、自分の経験を語らせたりするなど、授業づくりの工夫なども聞くことができ、自分の引き出しを増やすことができました。そして一人ではなく、誰かと一緒に教材分析するよさを改めて実感することができました。

講師から学ぶだけでなく、受講者同士で学び合うことも大切ですね。さらに、研修の前後で校内の先生方と研修内容について話すことも価値があります。授業の話・子どもの話ができる同期や同僚の関係をいつでも大切にしてください。…とはいえ「先輩！思いやりについて話しましょう！」と急に言われたら、先輩も違った心配をするかもしれませんね。

1学期はオンラインでの研修実施が続いていましたが、オンデマンド型のように自分のペースで動画視聴できることや、今回のような3～4名の小グループに加えて学年別の中グループでの交流など、「オンラインならではのメリット」も活かしながら、それぞれにとって学びのある研修にしていきたいですね。ルームの選択・移動のように、オンライン実施は受講するみなさんのご協力があって成り立つ部分が多々あることがわかりました。引き続きみなさんのご協力をよろしくお願いします！